

自分自身ができそうな被災地の農業再生について

原発事故の被災地福島での農業再生に関して、自分自身ができそうなことを尋ねられれば、多くの人は被災地の農産物を積極的に購入する、などを挙げるだろう。あるいは、ツイッターなどの SNS やブログ等で福島の農産物の安全性や良さを発信するとか、被災地支援のボランティア活動に参加する、といったものも考えられる。正直言って、今の自分はそのどれもする気はない。もともと SNS やブログなどの類はやっていない。ボランティアに参加するのも敷居を高く感じるし、そもそもどうすればそういった活動に参加できるのかも分からない。そして、福島の農産物を積極的に買うつもりも毛頭ない。むしろ、被災地の農産物だからと言って最優先にするのも、他の地域の農業生産者のことを考慮すると、いかななものかと思う。ただし、だからと言って自分は福島の農産物を敬遠するつもりもない。あくまで他の地域の農産物と同列に扱う。ところで、今年の 10 月、WHO の附属機関である国際がん研究機関が、「赤肉と加工肉の摂取の発がん性」という報告書を出し、不安になった多くの方が肉を買い控えるという事態になった。自分もこのニュースを聞いたときは驚いたが、肉の摂取を控えようとは全く思わなかった。色んな地域の、色んな食材をバランスよく食べていれば、そのうちのどれかに多少毒が入っていたところで、人体にはあまり影響を及ぼさないと自分は考えている。福島の場合も同じで、震災後の風評の通り、福島の農産物は他の地域のそれと比べて放射性物質が多く含まれているのかもしれないし、あるいは、全くそうではないのかもしれない。仮に前者が正しかったとしても、バランス良く、偏りなく食べていれば人体にさほど影響は出ない、と考えている。そのため、自分は福島の農産物だからといって避けたり敬遠したりするつもりはない。

勿論、福島の農産物を積極的に買えば、現地の農家も喜ぶだろうし、農業再生にも貢献できる。だが、色んな地域の色んな食材をバランスよく食べる、というのが食に対する自分のポリシーである。そのポリシーを曲げてまで、福島の農産物を積極的に食べる気にはならない。震災前と同じように福島県産の農産物に接する、というのが、現実的に考えて自分にできる一番の被災地農業再生への貢献なのだと思う。